

## IoT と画像技術の融合による医薬品流通の簡素化

株式会社タカゾノは、医薬品監査支援システムと分包機を通じて、ヒューマンエラーのリスクと薬剤師の負担を軽減すると同時に、患者様の安全性を大幅に高めることを目指しています。

「進化する医薬の世界で存在感を発揮できるよう、新たなビジネスチャンスを広げていきます。」  
株式会社タカゾノ 代表取締役社長 北口 勤

株式会社タカゾノは、1963年に設立されてから半世紀以上にわたり、患者様と医療従事者の両方をサポートする製品の製造に努めて参りました。

「我々は、正確で効率的な製品を開発するために、技術開発、製品の製造と販売、および関連サービスの提供に懸命に取り組み、患者様や薬剤師からのフィードバックを取り入れるために努めて参りました。」と語るのは代表取締役社長の北口勤氏。

「次の目標として、世界中の患者様や医療関係者の方々に満足していただける製品を提供していきます。我々の理念は、常に時代のニーズに応える製品づくりに最善を尽くし、世の中の変化に合わせて柔軟に対応していくことです。これからも、社会に貢献し続けるために努力して参ります。」

近年では、医薬品のモニタリングや識別を向上させ、人手による処理で発生するヒューマンエラーを低減するために、画像処理・画像加工技術を進化させてきました。2023年には電子処方箋が導入され、患者様は薬局で待たされることなく薬を受け取ることができるようになります。

「この電子処方箋にはトレーサビリティも組み込まれており、患者様の薬の摂取量を追跡したり、薬に対する体の反応をモニターしたりすることができます。」と北口社長は説明しています。

### 分包機

PR Times が日本の薬剤師を対象に最近実施した調査では、分包機に関する最大の不満は、コンタミ解消と自動集塵機能の欠如でありました。タカゾノの製品群の中にも分包機はあります。そして、この問題に取り組んでいますと北口社長は説明しています。

「日本の薬局は非常に狭く、限られたスペースしかありません。当社の錠剤・散剤分包機の特徴は、小型で非常にコンパクトであることです。機能性も高く、薬の調剤だけでなく、包装に関しても非常に正確です。モノづくりに誠実に取り組んできた結果、製品の寿命は非常に長くなっています。また製品は非常に耐久性があるがゆえに、既存のお客様に再販できないというジレンマもあります。」

今後は、分包機などの実用的なソリューションの提供だけでなく、医薬品分野のデジタル変革への投資も増やしていきたいと考えています。

「現状、患者様は紙の処方箋を受け取り、薬局でお薬を受け取りますが、IoTの進歩に伴い、モノの自動化も進んでいます。これは、物流の観点からも言えることです。病院に行くとき医師から薬を処方され、帰宅するころには薬が自宅に届いていることもあれば、自宅で待つ薬を受け取ることもあります。世界が変わっていく中で、タカゾノは新しいビジネスチャンスを見つけないかと考えています。新たに進化する医薬の世界で存在感を発揮できるよう、今後も新製品を提供し続けていきます。」

昨年、タカゾノの社長に就任した北口氏は、同社のコアとなる製造哲学と品質へのこだわり、そして新しいチャレンジに取り組むための絶え間なく改善を優先し、将来について明るい見通しを立てています。

「3年ごとに、会社として経営計画を立てています。私の社長としての役割は、この3年計画を着実かつ確実に達成することです。そうすることで、しっかりと次の世代に受け継がれるようなしっかりとした組織にしたいのです。日本には「三方よし」ということわざがありますが、これは売り手と買い手、そして社会にとってもメリットがあることを意味しています。恩恵を受けるべきなのは自社だけではなくありません。お客様にも利益がなければなりませんし、社会にも善と利益をもたらします。タカゾノは、この三方よしを提供する企業として、この理念を維持しています。」